

式辞

予定の7月20日から16日遅れの終業式です。

この16日間、「いつのまにか過ぎた」と感じている人、あるいは「やっと」と感じている人、それぞれいると思います。皆さんはどちらでしょうか？さて、夏休みを迎えるにあたり二つの話をしたいと思います。

一つ目は「濃厚接触者」についてです。「濃厚接触者」の日常生活での単純な目安を知っていますか。

感染者と、その発症二日前から、1m程度の距離で、マスクなしで、15分以上の会話をしたか。

です。

正確には、保健所が調査を行い個別に「濃厚接触者」に該当するかどうか判断しますが、このことに気を付けるだけで「濃厚接触者」となる確率は下がります。つまり感染リスクを随分と下げることができるといえます。日常生活の会話時には「距離をとる、マスクをする」を、今一度意識してください。自分自身の感染予防もありますが、周囲や会話相手に安心感を与えます。

二つ目は、終戦75年目を迎える戦争についてです。

明日8月6日は、75年前広島に原爆が投下された日です。平和記念式典も、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは違う開催の仕方となります。今は被害が進行中の新型コロナ関連のニュースへの関心がどうしても高くなりますが、先の戦争の記憶も忘れてはならないことです。

広島市は人口約35万人に対して1945年（終戦の年）末までの死亡者数を14万人±1万人と推計しています。長崎市は人口約24万人で1945年末までに73,884人が亡くなったとされています。

一方、一人一人の名前を把握する「原爆被爆者動態調査」では、広島市は8月6日に5万3,644人、1945年末まででは計8万8,978人が亡くなっています。推計との差からは、死亡者の正確な把握の難しさ、つまり当時の想像を絶する惨状が伝わってきます。

戦争が二度と繰り返されないために私達ができることは、その記憶をまずは受け継ぐこと、そして次は正しく伝えることだと思うのです。

新聞やテレビでも特集が組まれます。明日からの夏休み、75年前の戦争を振り返る機会を持ってください。

以上、式辞とします。